

信濃川大河津資料館友の会だより

● 講座開催のお知らせ ●

詳細は別紙チラシ
をご覧ください！

・大河津分水 俳句を楽しむ会

9月5日(土) 大河津分水 俳句を楽しむ会を開催
します。大河津分水の秋を詠んでみませんか？

日時：9月5日(土) 13:30~15:30

会場：大河津資料館 2F 多目的ホール

座長：田村紅子さん

・刈谷田川バスツアー

7.13 水害で破堤した刈谷田川破堤現場や秋葉公
園、刈谷田川ダムなどを見学し、7.13 水害からの地
域の復興を学びます。

日 時：9月16日(水) 8:30~16:30

定 員：25名

参加費：6000円(バス代、保険代)

・サケまつり、クリーン作戦 信濃川源流ツアー事前学習会

サケまつりでは大河津分水を上るサケを特別に捕獲し、サケ汁にして信濃川の恵みをいただきます。ク
リーン作戦では大河津分水周辺のゴミ拾いなどを行います。サケまつり開催後には、信濃川源流ツアーの
事前学習会を行います。ツアーに参加されない方もぜひお越し下さい！

日時：10月17日(土) 10:00~16:00

会場：大河津資料館 2F 多目的ホールほか

※サケまつりのお手伝いをしてくださる方、材料を提供してくださる方も募集中です！ご協力いただけ
る方は友の会事務局までご連絡下さい！

・信濃川源流ツアー

信濃川の始まりを見てみませんか？「体力に自信が
ない…」という方でもOK！スタッフが皆さんのペー
スに合わせてサポートします。ぜひご参加下さい！

日 時：10月24日(土) 25日(日)

定 員：25名

参加費：25,000円(宿泊代、バス代等)

・川の物語発表会での発表者募集！

11月28日(土)に予定している川の物語発表会での発表者を募集しています。1人(1団体)
1回あたり15分程度で、日頃の活動・研究の成果を発表するものです。皆様のご参加をお待ち
しています！なお、不明な点等はお手数ですが事務局までお問い合わせ下さい。

・信濃川花火プロジェクトへの協力者募集！

津南町から新潟市の信濃川河口まで連続して花火を打ち上げるプロジェクトです。打ち上げをお
手伝いいただける方などを募集していますので、ぜひご協力下さい！

講座への参加を希望される方は、【講座名・氏名・連絡先・参加人数】を友の会事務局までご連絡下
さい(TEL.0256-97-2195 FAX.0256-97-2196)。定員に達し次第締め切らせていただきます
のでご了承下さい。また、刈谷田川バスツアー、信濃川源流ツアーは座席数、費用の面から当日の
参加を受け付けることができません。必ず事前にお申し込み下さい。

土木技術映画鑑賞会・荒川探訪ツアー事前学習会

荒川放水路や首都高速道路についての土木技術映画を鑑賞しました。事前学習会では、荒川探訪ツアーの見所や注意事項、行程確認を行い、ツアーを楽しみにしている参加者の笑顔が見られました。

荒川探訪ツアー

関東を流れる荒川を視察し、関係施設を巡りました。荒川では、青山土のご子息の青山多恵さん（静岡県在住）が友の会一行を待っていてくれました。荒川知水資料館や岩淵水門と一緒に見学しました。また、首都圏外郭放水路や利根大堰など見学し、関東を流れる荒川と利根川、そして青山土にふれるツアーとなりました。



荒川探訪ツアー報告会 大河津分水を訓む-双書発刊記念講演会

1部の報告会では、ツアー参加者から荒川探訪ツアーでの写真を紹介しながら報告を行いました。

2部の講演会では、大河津分水双書9巻の発刊に伴い、執筆者の五百川清さんより信濃川の自然と先人の志についてお話いただきました。大河津分水双書は大河津資料館で販売中です！ぜひお求め下さい。



新旧可動堰見学ツアー

普段入ることができない可動堰管理橋や新可動堰改築現場の中に入り、信濃川河川事務所の小幡監督官より説明いただきました。新しい可動堰を間近で見え触れることができ、これからの越後平野を守る新しい可動堰を知ることができました。



今号の可動堰

現在、洪水期のため可動堰本体の工事は一時中断されていますが、広島工場ではゲートが製作されています。1門約40m、重さ360tのゲートは国内最大規模のゲートです。現可動堰のゲートは約15mですので、比較するととても大きいゲートということが分かります。1門のゲートの幅が大きいことにより、沢山の洪水を流すことが可能になります。

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点撮影を紹介します。



右岸堰軸から撮影
(平成21年8月14日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影
(平成21年8月14日撮影)

—新任の挨拶—

この度、信濃川大河津資料館長を拝命しました、服部憲雄でございます。
五百川元館長、碓井前館長の後を受け、身の引き締まる思いでございます。
何とぞ友の会の皆様方よりお力添えを賜りたくこの紙面をお借りしてお願い申し上げます。

大河津資料館は近年来館者が微増の傾向と伺っておりますが、依然として、まだ資料館の存在すら知らない人がいたり、存在を知っていても大河津分水の歴史や恩恵すらも知りえない人がいることは、大河津資料館に携わる身にとっては1人でも多くの人に知ってもらい、更によき理解者として共に様々な行動に参画していただくような土壌を育む努力を微力ながら尽力を尽くす次第です。

私の住まいは新潟の鳥屋野潟沿いにありますが、何しろ海拔ゼロメートル地帯ですから雨が少しでも降れば浸水するような常習地帯です。近年は国による治水対策が進み解消されてきましたが、周りの住民は大河津分水による恩恵については無知の状態が現実です。今の時期、混沌としている世情や地球温暖化による異常気象等を考えれば今までの大河津分水の役割、これからの大河津分水の使命を語り継ぐことが今まで携わってきた私たちの役割かと思えます。また歴史のロマンスを広げる夢も語れます。

大河津分水がメジャーになるためには「自然観光」としても注目を浴びる努力が必要かと思えますし、防災基地発信として安全、安心を後世に伝承する場としても大いに利用するよう努力してまいりたいと思えます。

大河津分水は郷土の史であり誉れでもあります。これもひとえに皆様方のご支援、ご努力の賜物ではないかと思えます。

この先どのような社会情勢になろうともこの大河津資料館をご支援賜りますようお願い申し上げます。なお、来館の際はお声をかけていただければ幸いです。重ねて、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



—退任の挨拶—

何時までも異常的な低温と長雨がつづく夏が進行しておりますが、それでも8月に入り、青田も出穂期を迎えております。この度、信濃川大河津資料館々長を6月30日付けで退職し、館長業務を服部憲雄新館長にお願い致しました。平成18年4月1日に館長として業務を開始して以来、3年3ヶ月の短い期間でしたが、友の会の皆様には大変お世話になりながら、盛り沢山の行事を楽しく実行できました事、本紙をお借りして厚く御礼申し上げ又、楽しく実施したイベントの1つ1つが、忘れることの出来ない私の宝であり、生涯の思い出であります。

資料館は、昭和53年に信濃川改修100年を記念して散逸している資料の収集と調査研究を目的に当時の、建設省信濃川工事事務所のご指導で誕生いたしました。

以来、平成14年の資料館の改造、展示物の衣替えなど近代化を図って今日に至っております。

然しながら、昨今においては、ミュージアム等の利用度は必しも活性化しておらず、各博物館では、館の利用度向上のために、知恵をだし、汗して頑張っているのが現状であります。

幸い信濃川大河津資料館では、会員皆様のお力をお借りしつつ広域的で且つ具体的なPR活動がエネルギーとなって”分水の意義”と”越後平野の発展”について遠方よりご来館を頂き、その上総合学習の現場教材として多くの学校からご活用いただく等々、入館者の増加へと直結していることは真に嬉しい限りであります。

これは偏に、会員皆様方からのご支援は勿論のこと、早川会長の適切なご指導と、小林副会長の限りないご配慮のおかげと感謝しつつ、3年有半の楽しい館長生活をおくらせていただきました。

今後は、信濃川の事情に詳しい服部新館長とともに、友の会がますますご発展あることを祈っております。

資料館職員はじめ、関係者の皆様本当にありがとうございました。

どなた様もご自愛下さいますように。





ようこそ！荒川放水路へ —友の会の皆様と共に—

友の会会員 山田 美登里

初めまして！埼玉県に住む私は、既に「友の会」の会員ではありますが、実際に皆様にお会いする機会はありませんでした。

ところが、嬉しい事に「東京荒川探訪ツアー」が6月に実現される事となり、その日を心待ちにしておりました。

当日は小雨模様でしたが青山多恵さん(青山士さんのご子息)にお見送りを頂きながら「あらかわ号」に乗船して放水路を下りました。「旧岩淵水門」や「荒川放水路」の辺りは、私の出身地でもあり子供の頃の思い出が沢山詰まった懐かしい所です。その頃は、「荒川知水資料館」も無く、「荒川放水路」や「旧岩淵水門」の重要性・「青山士さん」のことなど知る由もありませんでした。

それから、時代が流れ今から10年程前に、新聞の記事「荒川放水路・通水75周年」に目が止まり、青山士さんの偉業を知りその後、更に「大河津分水」を訪れるまでに至りました。

これからも、河川土木に興味を持ちながら知識を深めてまいりたいと思います。

どうぞよろしく願い申し上げます。



川よ！皆様！初めまして！

友の会会員 細野 美恵子

私の入会は、平成20年4月です。きっかけは、合併後、長善館を知ったことからでした。100人委員会に参加した折、長善館と衝撃的な出会いをし、郷愁と親近感から何ううちに、大河津分水建設に志を持った青年がいたことを知りました。当然、なぜ建設なの？という疑問です。日本一長い川は、信濃川と知っていましたが、大河津分水が人工の川であることは、当地に来て初めて知りました。27年在住ですが感心がなかったのです。山口県下関出身の私が、越後の松下村塾と言われている長善館に、故郷長州をダブらせたことから派生して、今、知りたいと思っています。

又、平成20年秋に、燕図書館では、科学絵本作家の加古里子さんの原画展がありました。図書館ボランティアとして番をしましたが、土木の歴史絵本シリーズの中に、パナマ運河建設に従事した青山士の名も見つけました。この方も、大河津分水建設に関わった方ですね！と興味をそそられてはいますが、ピアノ教師の為、土曜日の活動がなかなか出来ません。しかし、今秋10月24日、25日の信濃川源流ツアーには、ぜひ参加したいと思っています。皆様、どうぞよろしくご教授くださいませ！

次のご指名は五十嵐晃さんと濱田敏子さんです。